



文教の杜ながい  
BUNKYUNOMORI NAGAI

TAKAHASHI KUNIIYA



Title: 鷲

# 高橋都哉展

郷土に根付いた日本画家、高橋都哉

小林古徑の内弟子として研鑽を積み中央画壇で活躍するも  
戦争に翻弄され郷土に根を下ろし 情勢不安の中で無欲  
に制作を続けた作家の思いを辿る展覧会

2022 7 | 6 Wed ▶ 8 | 7 Sun

10:00-17:00

丸大扇屋 入場無料

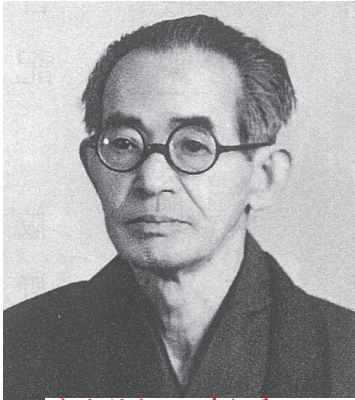




# 高橋都哉展

TAKAHASHI KUNIYA

助成：置賜文化フォーラム地域文化振興支援事業



たかはし くにや

高橋 都哉

1893-1965

小柄で痩せ型、派手好みでなくいつも和服にもんぺ姿で質素な生活を送った。

## 長井市西根に生まれた高橋都哉は、

農家に生まれながら画業を志し、小林古径の内弟子として、兄弟弟子だった奥村土牛とともに研鑽を積み日本美術院展で活躍した日本画家です。戦後の食糧難や情勢不安から逃れるため帰郷し、中央画壇から離れて地道な制作をつづけました。その柔らかくも細やかな筆致からは、穏やかで実直な人間性がうかがえます。本展では、昨年新たに長井市に寄贈された大作を中心に、郷土に残された作品を紹介し、紆余曲折の人生を歩んだ作家の心情に思いをよせ、その芸術観を探ります。

\* 小林古径 (1883年-1957年) 日本画家。東京藝術大学教授。帝室技芸員。文化勲章。  
\* 奥村土牛 (1889年-1990年) 日本画家。院展理事長を歴任。芸術院会員。文化勲章。

### Profile

- 1893 草岡新町 高橋墨次・ふじの長男として出生。
- 1920 画家を志し、上京。木島柳鷗に師事。雅号は柳邦。
- 1921 雅号を都哉に変え、「若葉の頃」が第二回中央美術社展に入選。
- 1926 木島柳鷗のもとを離れ、小林古径に師事。内弟子となる。
- 1928 第15回日本美術院展に「けし」が初入選。以後、連続入選し、院友となる。
- 1941 しげ (甲府市生まれ) と結婚。
- 1943 世情の影響もあり、雅号を国家と称した。(1946年に、都哉に戻す)
- 1945 妻子が疎開していた故郷 草岡に帰省。その後、故郷に根を下ろす。
- 1951 山形県総合美術展の審査で山形を訪れた奥村土牛と再会。
- 1963 多発性リュウマチが悪化。
- 1965 8月31日。多発性リュウマチと脳軟化症により、この世を去る。



1. 牡丹
2. 片洞門
3. ひまわり
4. 小林古径宅付近

## トークイベント

talk

8/6 Sat

14:00~15:30  
丸大扇屋新座敷

定員: 20名 (先着順)  
入場料: 無料



©Photos by Taka Kamei

## 高橋都哉の生きた時代

郷土出身の日本画家が生きた明治、大正、昭和とは、どのような時代だったか。当時の日本画を取り巻く諸相をお話することで、その心情を探ります。

キュレーター 小金沢 智 koganezawa satoshi

東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース専任講師

1982年、群馬県生まれ。2008年、明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻博士前期課程修了。専門は日本近現代美術史、キュレーション。世田谷美術館、太田市美術館・図書館の学芸員を経て現職。主な企画に「都美セレクション グループ展2022たえて日本画のなかりせば東京都美術館篇」(東京都美術館、2022)、「現代日本画へようこそ」(太田市美術館・図書館、2018)など多数。「現在」の表現をベースに据えながら、ジャンルや歴史を横断するキュレーションを得意とする。

\* ご来場の際はマスク着用等の感染症対策にご協力をお願いします。

お問い合わせ：文教の杜ながい | 長井市十日町 1-11-7 | 0238-88-4151



文教の杜ながい  
BUNKYOUNOMORI NAGAI